

悠久

第 52 号

March 2018

本号の内容

- ①「共に育ち合う関わり合いの知恵」 岡山旭東病院 院長 土井章弘
- ②吉備中央町中学生国際交流研修 吉備中央町協働推進課
- ③S G S G の め ざ す も の 一般社団法人SGSG 理事長 野村泰介
- ④日中教育交流報告会開催 協議会事務局

天津市 天主教



「共に育ち合う関わり合いの知恵」



岡山旭東病院

院長 土井章弘

私と中国との関わりは、岡山市日中友好協会会長の片岡和男先生（岡山済生会病院名誉院長）に誘われて二〇一〇年岡山市と中国洛陽市との友好都市の訪問団にご一緒したときに始まり、その後、洛陽市との医療交流のお手伝いをして参りました。

当院には現在、中国から来日した六名の看護師と一名の事務職員が働いています。出身も四川省・上海・吉林省・内モンゴルと様々です。看護師の内四人は、中国の看護大学を卒業後、当院で看護師として働きながら語学検定（N1）を合格して、日本の看護師国家試験に合格しました。私たちの病院ではなくてはならないスタッフとして働いてくれています。

二〇一八年度岡山市日中友好協会総会において、毛丹青先生（神戸市外国語大学客員教授）の講演で「越境する日本文化と中国の若者たち」の趣旨の話を聴きましたが、互いに人と人の交流と同時に文化交流を進めていくことが大切であると思いました。いま、多くの国から日本を訪れる観光客が増え、二〇一七年度、中国からも五〇〇万人が訪れています。その中には、病院受診や、健診を希望される人もいないかと思っています。岡山旭東病院もジャパン インターナショナル ホスピタル「J-IH」の認証をうけましたが、健診や治療にも対応していきたいと思っています。

生命の特徴を大田堯先生（元東京大学教育学部教授・都留文科大学学長を歴任）は「ちがう、かわる、かわる」であるといえます。国や民族が違い、それが自己中心的になりやすい要因になります。しかし、人が一人では生きていけないように、国や民族も他との関わりなく過ごすことは不可能です。三つ目は「変わる」という事です。蝶は、卵から青虫になって、蛹になって、蝶に変身していきます。同じように国や民族も常に変化していく生命体です。国も色々な文化や政治体制を変化させながら変わっていきます。その中で、中国とも「関わり合いの知恵」を学び共に育ち合って友好を進めていきたいものです。

これからも、日中の友好交流のお手伝いができればと考えています。

吉備中央町中学生国際交流研修

～中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区との国際交流～

吉備中央町協働推進課

中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区と交流を始めて以来11回目を迎えた中学生による研修団の派遣。今年も8名の中学生が選ばれ、引率者4名を含む12名の研修団で、中国訪問を体験しました。

教育委員会、山本泰弘事務局長を団長にした研修団は、8月18日の壮行式に参加し、それぞれの決意を胸に出発しました。8月23日までの6日間、歓迎会をはじめ周恩来総理の生家・記念館や孫悟空の作者吳承恩氏生家の見学、小学校や中学校への訪問などを行い、その間、中学生は2泊3日のホームステイも体験しました。

この研修で、中学生は海外への興味関心を高め、異文化を肌で感じることでより、国際理解の基本であるコミュニケーション能力や協力する力を育み、視野を広げてきました。

【壮行式】



団員（壮行式にて）

出発当日、早朝の壮行式。岡田副町長、難波議長からの激励の言葉を頂き、訪問団員12名は

岡山空港から上海へ向け出発しました。上海浦東空港では、淮安区辦公室



力強く決意表明する学生リーダー

（胡光宏様）・江蘇省国際交流センター通訳（王研婕様）の迎えがありました。

【淮安区】

淮安区では、淮安区副区長をはじめ、淮安市や淮安区の職員の方・ホストファミリーの方々の



淮安区から記念品の漆器を受け取る団長



淮安区副区長と各テーブルごとに乾杯

み、恥ずかしさ等もありましたが、慣れない中国語を使ったり、ジェスチャーを使いながら交流を深めていました。

【学校訪問・交流会・教育懇談会】

淮安区の学校2校の視察を行いました。（実験中学校・周恩来紅軍小学校）

中でも淮安中学校は、90クラス、500人以上の大規模校でした。

実験中学校では、友好交流会を行いました。

中国の学生による、コマ、太鼓、ダンスを披露していただいたり、椅子取りゲームを行いました。吉備中央町中学生



ホストファミリーのご家族を訪問

策が廃止され、子どもが2人いる家庭もありました。子どもたちは、ホームステイ先では熱烈なおもてな

からは「世界にひとつだけの花」を手話を交えて歌い、伝承遊び（折り紙・お手玉）をグループに分かれ披露し、その後、中国の学生と一緒に遊びを通して交流をしました。

【ホームステイ】

ホームステイ先家庭へ引率者で家庭訪問を行いました。4家庭とも上流階級の家庭でした。全て集合住宅（中心街）。集合住宅は、6階7階建てが多く階段と踊り場は、雑然としていました。しかし、家の中は非常にゴージャスな造りになっていました。両親に子1人という家族構成がほとんどでしたが、一人っ子政



グループに分かれて伝承遊びの折り紙で交流



周恩来紅軍小学校



上海の夜景

買物も、中国「元」表示なので、中国「元」を日本「円」に換算して購入すると思う、勉強もできたと思います。



周恩来故居

ランドで、一日中遊ぶことができ、グループで行動し買い物をしたり、アトラクションで遊んで楽しんでいました。

【視察・見学】

期間中、周恩来首相の故居、西遊記の作者である呉承恩の故居の視察等の見学を行いました。上海では上海ディズニーランドで、一日中遊ぶことができ、グループで行動し買い物をしたり、アトラクションで遊んで楽しんでいました。



ホストファミリーのご家庭で

しを受けたようです。交流の方法は身振り手振りやパソコンで翻訳ソフトを利用して会話をすることが主であったよう

また、上海の夜景を遊覧船から見ることができました。

【ホテル】

ホテルについては、淮安では、最高級のホテルを準備してくださいました。

【トイレ】

トイレについては、通常の場所ではトイレペーパーは設置されていません。設置されているところは限られていて、空港、ホテルくらいです。

【食事】

食事は、生ものはなかったようです。出てくるのは、煮たり焼いたりするものが多く、味は薄味ですが、香辛料が効いているものがたまにあります。

食事の際に出される飲み物は、基本的に常温の水（冷水は特に注文する必要があります。）ジュース類は炭酸系（コーラ・スプライト）で常温。

中国の朝食では、ごはんはおかゆ（味はなし。おかゆは、お漬物の塩味があるので味はつけない）。

朝・昼・夕食とも、丸い円卓に乗り切れないほどの品々が並べられ、食べきれないほどの量でした。中国では、このように食べきれないほどの量を出すことが、おもてなしのこと。

【終わりに】

この度の交流について訪問団長の感想を掲載します。

江蘇省淮安市淮安区訪問感想

岡山 本 泰 弘

今回友好交流都市である中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区を訪問することができ大変光栄に思っています。吉備中央町の名誉町民である岡崎嘉平太先生と淮安区出身の周恩来首相とが築いた友好の絆がいかに固いものであったかを直に体験することができました。

岡崎先生は、今から55年前に初めて中国を訪問し、周首相と運命的な出会いをしました。周首相は、「日本は我が国を侵略し、人民を傷つけ苦しめてきました。我々にはその深い恨みがあるのです。恨みがあるといえども、中国と日本には二千年にわたる『友好の歴史』があります。戦争による不幸な歴史は、わずか数十年に過ぎないのです。我々は恨みを忘れようと努力しています。これから中日が力を合わせて、アジアを良くしていこうではありませんか。」と話され、岡崎先生はその言葉に心を打たれました。そしてお互いを信じあうようになりました。

二人の努力により、両国の間に「日中総合貿易に関する覚書」が締結されました。これをきっかけに正式な国交が10年後に結ばれることとなり、日中国交正常化の際には、田中角栄総理が北京を訪問する2日前に周首相は岡崎先生をもてなすために食事を開き、「中国には『水を飲むときには、その井戸を掘ってくれた人を忘れない』という言葉があり

ます。」「間もなく田中総理は中国に來られ、国交は正常化します。しかしその井戸を掘ったのは岡崎さん、あなたです。」と言われました。友好の懸け橋を築いた二人には語り尽せないほどのエピソードが残されています。

淮安区は、訪問する前に私が想像していた町の風景とは全く違って大都会でした。高層マンションが建ち並び高級車が行かい、高速鉄道が建設されるなど中国の経済発展の凄さに驚かされました。歓迎会では淮安区の副区長をはじめ多くの方々から熱烈歓迎を受け、二人が築いた友好の絆は脈々と息づいていると知らされました。周首相の生家や記念館、いろいろな施設を案内していただき中国の雄大さを目の当たりにしました。また食事も和食や洋食が出て大変気を使っていた

ホームステイで中学生たちは、日本の日常生活とは違う体験ができたたり普段家庭で食べるのではない料理を味わうことができました。またホストファミリーには大変親切にしてくださいました。

淮安市との交流を体験することで中国のことを多面的に知ることができ貴重な機会を得ることができました。また、「自分を広げる」場であり「自分を見つめる」場でもあったと思います。文化や習慣が違う人と接することで自分の枠が広がると同時に、自分という軸を考えるときっかけになりました。お互いを理解し合う貴重な交流ができた6日間だったと思います。

JK（ジャスト高校生）の力で 世の中を変える方法

— SGS Gの挑戦 —

一般社団法人SGSG 理事長 野村 泰 介

高校生の六四・八%が「自分ががんばっても社会は変わらない」という調査結果があります。（子どもの生活と学びに関する親子調査二〇一六）ベネッセ教育総合研究所）なかなかシヨッキングな数字ですね。

私は二〇〇〇年から二〇一六年まで高校教員の立場で、多くの高校生と接してきました。その中で上記の数字、実はあながち間違っていないかも、と感じざるを得ない事例も多く経験しました。指示待ち、無気力、行動する前から諦める……。そのような高校生を目の当たりにしたとき、「最近の高校生は・・・」とため息交じりにつぶやく大人の姿が想像できます。しかし、本当に高校生の多くが無気力なのでしょうか？ 私は無気力な高校生に出会うたびに、「なぜ、そんなにやる気がないの？」と尋ね続けました。すると、「無気力」とレッテルづけされた高校生の中には「だって、頑張り方がわからないんだもん」「先生や親はすぐにあれダメこれダメって、そんなんじややる気なくすよね」と言うではないですか！「高校生無気力問題」は高校生自身ではなく、周囲の大人との関係性に原因があるのかも？と思うようになりました。

ちょうどその頃、勤めていた学校を退職し、高校生支援を本格的にはじめることにし、「SGSG」という組織を立ち上げました。SGSGとはS（スクール）G（ゲノッセンシャフト）S（ソーシャル）G（グッド）の略です。後半のSG（ソーシャルグッド）は「世の中に良いこと」という意味です。前半のS（スクール）はそのまますchoolという意味ですが、問題はG（ゲノッセンシャフト）。ほとんどの方が馴染み無い言葉だと思います。ゲノッセンシャフトとは社会学用語で「人為的に構成された共同体」という意味で十九世紀中頃から二十世紀初頭のドイツの法学者、オットー・フォン・ギルケによって提唱されました。私はゲノッセンシャフトを「自発的かつ対等に集まる協働集団」と解釈しました。SGSGの四文字で「従来の学校と異なり、対等な関係性における学生と教師の協働活動によってソーシャルグッドを考える方」という、言葉にするとややこしい組織名になってしまします。ただ、実際のところあまり難しいことは言わずに「学校の外から高校生の自主活動を応援する団体」と理解していただければと思います。



奉還町商店街内にある「SGSG」

前置きが長くなってしまいました。SGSGでは具体的に何をやっているのか？というお話をさせていただきます。昨年九月、岡山県ボランティア・NPO活動支援センター（ゆうあいセンター）主催の「第五回高校生ボランティアアワード」に出場する高校生へのアドバイザー（ゆうあいセンター）としての上海での高校生交流に参加したノートルダム清心女子高校の生徒さんの活動が入賞しています。十二月に奉還町商店街を舞台にした「奉還町フリマ×JK」の企画をしました。年明け、これらの活動に関わった高校生が私の元を訪ねてきて「もっと何か大きなことをやってみたいです！」と。そこで、SGSGの中に、高校生たちの「やりたい」想い



高校生たちのミーティングの様子

と社会のニーズを一致させる活動を行うサークル「#おかやまJKnote」を結成しました。JKとは巷で言われている「女子高校生」のことではなく、「ジャスト高校生」＝ちょうど高校生世代と定義しました。リーダーとなる高校生が、SNSを駆使し、二十名近いJKを集めました。そのメンバーで三月に奉還町商店街で行ったのが「奉還町JKnote×ぼっちぼっちフェス」。

園などへのチラシ配りなど地道な広報活動が実を結び、当日は五百六十四名もの人にJKの企画に参加していただきました。自分たちで考えたことで多くの人が集まり、かつ社会に良い行動につながる。これは大きな成功体験です。イベント後の高校生たちのすがすがしい笑顔が忘れられません。

さて、SSGの活動は、高校生がイベントをするだけで終わりではありません。継続を活動させることができれば一過性の打ち上げ花火と言われてしまいます。私は率直に高校生に「何やりたい?」と尋ねました。成功体験を経験した高校生たちの口から、次から次へとやりたいことがあふれてきます。ここからがJKを支援する大人の腕の見せ所。荒削りなJKのアイデアを社会貢献にまで昇華させるために奔走する必要があります。その場こそがSSGなのです。私はいつも高校生に「君たちは特別な力を持ったスーパー高校生?それとも普通の高校生?」と聞きます。多くの高校生は「普通の高校生・あ、それ以下かも!」と答えます。それでいいのです。世の中を一人で変えてしまうようなスーパー高校生なんてそう簡単



#おかやまJKnoteに集う高校生

にいません。「普通の高校生」の小さな力が集まって、世の中は少しずつ動いていくのではないのでしょうか。奉還町商店街にあるSSGの事務所を「学校の枠を超えた高校生のシェア部室」にしようという計画中です。ここでも私のような大人が「さあ、この場を自由に使いなさい!」と提供するのではなく、「シェア部室」の運営方法、多くの高校生を呼ぶための仕掛け、そして、維持するための経費の確保、そこまで高校生に考えてもらう予定です。私が特に重要視しているのは、経費の確保、すなわち「お金集め」です。「人が動けばお金が動く」原則を高校生の中から身を持って知るために、活動の原資をどう集めるのかを

徹底的に考えさせます。企業への寄付集め、ネットを使ったクラウドファンディング、あるいは、JK発のソーシャルビジネスの開発かもしれません。どのような方法であっても最初は苦労すると思いますが、結果が出たときの高校生たちの充実感と「高校生の力でここまでできるのか!」という大人の評価の化学反応で世の中は確実に変わると信じています。JK(ジャスト高校生)の力で世の中を変えるためのSSGの挑戦が、これから始まります。

一般社団法人SSG

web: www.nomutai.net
メール: info@nomutai.net



3月のイベント「奉還町JKnote×ぼっちぼっちフェス」終了後、スタッフ集合写真

日中教育交流報告会開催

協議会事務局

二月十一日、岡山県生涯学習センターにて高校生たちによる日中教育交流報告会が開催された。この報告会は、当協議会が毎年この時期に、県下の教育交流を展開している学校や行政の交流を広く紹介するため開催しているもので、本年は、県高等学校文化連盟（高文連）による上海市との芸術交流に参加した岡山南高等学校邦楽部の生徒四名と本年度STUDENT EXCHANGE（SE）事業に参加した生徒十四名の内五名が参加し報告した。

また、今回の報告会には、協議会の関係者や父兄の他、NPOこどもフォーラム岡山（インターキッズ）の浜家弘己会長はじめ高校生四名が参加し、報告後活発な意見交換を行なった。

以下、SE事業に参加した二名の報告を掲載する（事務局）

『今後の課題が見えてきた』

岡山県立岡山城東高等学校

一年 富岡 みづき

私が中国を訪れようと思った理由の一つは、自分の英語がどれほど海外で通用するのを試してみたかったからでした。私の通う岡山城東高校はSUPER GLOBAL HIGH SCHOOLに指定されており、国際教養学類も設置されています。そのため、帰国子女の生徒の数が他校と比べて多く、外国と

の交流も盛んに行われています。しかし私は外国へ行ったこともなかったし、自分の英語を実際に使ったこともなかったのので、英語でコミュニケーションをとることに興味を持つようになりました。

中国へ訪れた際には、国外で出るのが初めてだった私からするとすべてが未知の世界で、どこにいても耳に入ってくるのは聞き慣れない言語ばかり。そんな状況で初対面したホームステイ先のソイは、私の緊張を読み取ってくれたのか優しく英語で話しかけてくれました。「今日の夜は何が食べたか？」「これからどこへ行きたい？」「そんなたくさんの優しさに、私は必死に単語で返すことしかできませんでした。いざ話そうと思うと、焦ってしまい言葉ができませんでした。それでも何とか自分の意志を伝え、無事に三日間のホームステイを終えることができました。初めて踏み込んだ世界。日本が当たり前ではないと感じたと同時に、もつといろいろな世界を見てみたい、もつといろいろな世界の人と話してみたい。そう思いました。

そして十月には私たちがホストとなりホームステイをする側になりました。日本のことを少しでも知ってもらおうと意気込んでいたのですが、自分でも驚くほど話しかけられず、両親に頼ってばかりでした。父は仕事上英語を使っているものの、母は私よりも英語から離れた生活を送っているにも関

わらず、ソイとのコミュニケーションを積極的にとっていました。言葉だけでなく身振り手振りも使って、そして何より一生懸命に伝えようとしている母の姿から、今後の私の課題が見えた気がしました。もちろん、文法や発音、単語などとても大切で、これからも勉強していかなければなりません。しかし、実際にコミュニケーションをとると、相手に自分の気持ちや伝わらなければ意味がありません。失敗を恐れたり恥ずかしがったりせず、自分から話そうという姿勢が大切だと学びました。

また、自分に日本についての知識が足りないことにも気づかされました。ソイと一緒にイオンモールにショッピングへ行行った際に免税手続きを行ったものの、免税という言葉は知っていたものの、実際にすることがなかったのでもとても戸惑いました。そして歓迎



参加者から活発な意見

会では、日本らしさを出すために浴衣を着て出席したりお茶を出したりしましたが、私は何にも貢献することができませんでした。一方で中国の学生たちは見たことがない綺麗な民族舞踊などを披露してくれ、自国愛がとても感じられました。日本のことを世界に知ってもらうためには、まず私たち日本人が日本に関心を持つ必要があると思います。

自分の英語がどれほど通用するのか試した結果、改善するべき点がたくさん見つかりました。実際に外国の学生と交流するのは貴重であり、そんな経験ができたからこそこれからもめげずに世界と繋がっていきたいと思っています。

『メディアが報じる中国と自分の目で見た中国』

就実高等学校

二年 福永 萌華

私にとって今回の日中青年交流事業が初めての海外留学でした。私は幼いころから外国の生活習慣や文化に興味があり、そして将来は英語を活かした職に就きたいという目標から今回の事業に参加させていただきました。留学先の国のこだわりは特に無く、偶然その留学先が中国でした。

以前の私の中国に対する印象は、あまり良くありませんでした。なぜなら日本のメディアの中国の大気汚染や



岡山南高校の報告

食の安全性が低いなどというマイナーな報道をよく耳にしており、そして私自身のメディアリテラシーが欠落していたからです。

しかし、いざ中国に足を踏み入れると、私の中国に対する印象を覆すかのごとく、空は青く澄んでいて、建ち並ぶ高層ビルは立派なものばかりでした。とくに、夜の浦東や豫園は華やかにライトアップされていて、今でも心に焼き付いています。

そしてこの事業の最大の目的である上海第一中学の生徒の方々との交流では、互いの文化や習慣を理解したり、友好関係を築くことができ、とても良い経験となりました。最初、私はとても緊張していましたが、中国の生徒達はとても明るく、私達日本人生徒のために、歓迎会でたくさんの方の企画を用意してくれていて、いつのまにか、不安や緊張は消えていました。ホームシス

ターの恩源や両親は、私に不安を感じさせないようにするため、中国の歌を歌ってくれたり、手料理を振る舞ってくれたり、いろんな場所に連れて行ってくれたり、自分たちの普段の様子もたくさん話してくれ、中国の方々の温かさに触れることができました。そしてホームステイを通して国籍は異なっているけれども、日本人も中国人も人に対する思いやりの心や優しさに大差はないということ学びました。

たったの四泊五日という短い期間でしたが、実際に自分の目で中国を見ることによって、以前の私の中国に対する印象は全く変わっていました。この事業に参加して、私が最も学んだことは、メディアを通して受信する者は、発信された情報に偏りや嘘、情報操作が行われていないかを身につける力を養わなければならない、そして情報を発信する側も多角的な視点で情報を発信しなければならないということでした。現状、日中関係はとても良好と言えるようなものではありません。その原因として、歴史的背景が現在も色濃く影を落としているというのも一つの理由だと思えますが、最大の原因として両国のメディアが互いに一定の視点からしか両国のことを報道していないのではないかと、また、国民一人一人がその情報に囚われすぎているのが原因ではないかと私は思います。国同士が表面上で仲良くするのではなく、一人一人がお互いを理解しなければ、日中

関係は良好になりません。そして、それは全世界中に当てはまることだと思っています。一人一人が意識を変えることで、本当の世界平和が実現できる日が来ると思います。

去年の秋に、上海第一中学の生徒達が来日し、私たちは再会をはたしました。そこで私は中国の文化を知ることの嬉しさを感じると同時に、日本の文化を相手に知ってもらうことにも嬉しさを感じました。しかし、自身の勉強不足で、あまり日本の文化について思源に伝えてあげることができませんでした。もし、次会える機会があれば、もっと日本の文化も中国の文化も理解しておきたいです。今回の来日経験によって、中国の生徒達にも、日本に好印象を抱いてもらえていたら、嬉しいです。そして、来年も再来年も、この事業にたくさんの方の高校生に参加してもらいたいです。



意見交換会で積極的に発言するインターキッズの生徒



岡山商科大学孔子学院

中国語講座

2017年度 8レベル展開 計18回
※途中からの受講可能

特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回

子供向けコース

毎週土曜日(11:00~12:00)
全15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-256-6670 (直通) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

- 現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●国際教養学部国際教養学科
- 大学院(現代生活学研究科 子ども学研究科)

中国短期大学

- 総合生活学科 ●保育学科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校

平成30年度「新しい科・コース」・「新しい制服」そして「新しい学び」がはじまります

【普通科】

- ・グローバルサイエンスコース *New*
- ・インターナショナルコース *New*
- ・スポーツサイエンスコース *New*

【教育学科】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
Tel (086) 256-8527 Fax (086) 256-8526
フリーダイヤル 0120-209817
URL: okayama.ridaifu.net



赤ちゃんからお年寄りまで、
ひとりひとりの「よく生きる」のために。

ベネッセグループは、教育 / 語学 / 生活 / シニア・介護の分野でお客様一人ひとりの「Benesse」を
支援する事業を展開しています。 Benesseは、フレン語の bene(よく) と esse(生きる) を一語にした造語です。



株式会社 ベネッセホールディングス 岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第52号

発行：平成30年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041